授業に関するアンケート（2017 年度春学期・学部）
実施結果に対する授業評価報告

・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
・原則として、すべての項目にご記入ください。
・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
薬学部医療薬学科

（1）授業実施に関する質問結果について

１．授業内容はシラバスに合っていましたか。
すべての科目は概ねシラバスに沿って授業されている。臨時で必要な事項を入れている科目もあるが、それを持ってシラバスどおりでないと評価するのはおかしいし、この設問自体に意味はない。
２．受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
すべての科目において理解度を確かめながら授業を進め、期末テストで最終確認を行っている。
３．授業レベルは自分に合っていましたか。
レベルに合うとか合わないとかいう問題ではなく、すべてが必修科目であり、苦手であっても受講しなければならない。レベルに合ったすべての学生のレベルに合った授業をするにはもっと教員およびクラスを増やすべきである。この設問はナンセンスである。
４．教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
スモールグループディスカッションを取り入れ、学生同士の話し合いの中で答を導く授業を取り入れている。しかし、覚えなければならない項目が非常に多く、知識のない状態でのスモールグループディスカッションなどのアクティブラーニングの導入は、国家試験の合格率を下げる恐れがあり、時期を見て行っている。
５．提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
レポート等の提出物に対しフィードバックをする場合、出来る場合と出来な場合があり、しかも薬学部での提出物は膨大なので短期間でフィードバック出来るものではない。また、マナビーは使用しづらく、レポートの提出や課題の提示に対しては良いかもしれないが、双方向の学修を促進する意味においては使えない。自己学修を促すための演習問題等は直接学生に講義で手渡しした方が遥かに効率的である。マナビーに課題を乗せてもアクセス数が少ない。
６．言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
多くの教員は教科書のほかにプリントを配布して理解を助ける工夫をしている。しかし、それに対して効果があるかどうかは、学生自身の学修に対する姿勢の問題である。工夫されていたから学習効果が上がるとは考えられないので、この質問はナンセンス。
７．自主学習を促す工夫がなされていましたか。
多くの授業では、授業の合間に確認テストを取り入れ、学修を促すことを行っている。テストをするといえばおのずと学修効果が現れる。これを授業中に行わなくてはならないので本来のやるべき授業が制限されてしまう。
８．工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
パワーポイントを使用する講義が多い。しかし、パワーポイントの使用は教員には便利であるが、学生にしてみると知識の定着には至らない。知識の定着にはある程度の期間をおいた繰り返しの試験（再試験）が必要である。しかし、再試験制度はないので、その状況で知識の定着を促すために、レポート提出の機会を増し、到達度確認テストの実施する教員が増えている。また、パワーポイントの使用よりもノートを取らせるためにパワーポイントを板書に切り替える教員も増えている（アメリカではパワーポイントによる授業は学習効果を高めないことが報告されている）。

（2）この授業の学修行動に関する質問結果について

９．この授業の予習、復習、自主学習に１週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
講義中に確認テストを繰り返す授業では学修時間が長くなる。しかし、必修科目がすべてであり、科目数が多い薬学

の各教科について学修時間が少ないという結果となっているがすべての科目を総合すると、１日あたりの学修時間はかなり多くなる。したがって、単純に学修時間を他学部他学科のクラス当たりの学修時間とは比較は出来ない。単に講義単位で学修時間をアンケートすることには何の意味も見出せない。また、学修時間は必要に迫られて伸びてくるのが実態で、６年次の薬剤師国家試験の対策として位置づけられている薬学特別演習 b の１つのクラスで学修時間が他学部に比べて突出するのは、勉強しなければならない時期のアクティブラーニングであるといえる。この設問もナンセンスである。
10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
薬学的な設問に対して教員が質問し、学生に答を問うこともあるが、120 人のクラスでは積極的に意見を言う場面などありえない。設問がナンセンスで答えようがない。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
すべてが必須の科目であるので、すべての科目に興味を持ち、学修を深めたいと思うはずがなく、得意科目、不得意科目、好きな科目、嫌いな科目が存在して当然である。しかし、否定的な意見の学生には、学生自身の学修態度に問題があるといえる。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。
薬学部の科目はすべて必須だから、好き、嫌いに関わらず学生は受講する。薬学部にとってはナンセンスな項目である。

（３）この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
薬学教育コアカリキュラムにより到達目標が定められている。教員はそれに則って授業を組み立てている。学生には入学当初コアカリキュラムを手渡しているが、それを認知しているかどうか疑問である。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
何が到達目標であるかはっきりと学生に認識させることが先決である。
15. DWCLA10 の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。
科目に応じた DSWCLA10 が選択されていた。

（４）その他

アンケートに関しては、薬学部にそぐわない項目が多く見られ、どうにも返答できない部分がある。また、学生が高い評価を寄せる科目は比較的わかり易い科目、身近な科目、などであり、本当に必要であるにもかかわらず難解な科目に対しては辛口の評価を与えている。つまり、満足度調査のようなアンケートになっている。もし、教員の授業の行い方を改善させるためのものであるならば、教員の授業の行い方のどの部分が悪いのかをはっきりと指し示し、改善ポイントをその教員に教務課経由で突きつけるべきべきである。また、アンケート自身が学生の自己中心的な考えにより答えるように出来ており、教員はその回答に振り回されている。さらに、他学部他学科との比較については、科目の質、量、必要性が異なるので、単純には比較できない。薬学部は、薬剤師国家試験合格と言う明確な目標がある訳で、それに向って必要となる学修の達成度が目標に近付いたか否かを学生にわかってもらえるようなアンケートが必要である。例えば、学修の進捗度を各学年でどのようであったのかを指し示す自己評価のためのルーブリックを web 上に作成し、成績開示の前にそのルーブリックに学生自身が入力して自己評価しなければ成績を見ることが出来ないようナシステムを構築し、学年進行に応じた学修の進捗度が向上していく様子を視覚的に認識させるなどの方法が取れると思う。東北福祉大学がこのようなルーブリックによる学修の自己評価を web 上に載せているので、参考になると思う。教員はそのような進捗を見ながら、講義の内容や室を是正していくことが出来る。これぞ、PDCA サイクルではないのでしょうか。

教育開発支援センター